

キャリアカウンセラーとしてご活躍の中瀬さんに、働く上で必要な日本語力についてお伺いしました。

### プロフィール

立教大学卒業後、資格取得スクールに約 10 年間勤務。教材制作、e ラーニング、広報など幅広く経験。その後、AllAbout 資格ガイド(旧「女性のための資格情報」ガイド)、ゴールドマン・サックス・ギブズ・コミュニティ支援プログラム「ひとり親就労支援プロジェクト」就労アドバイザーを務めるなど、主に女性・子どもの「資格・検定」を専門に執筆、キャリアカウンセリング等を行う。プライベートでは 2 児の母。

<執筆/監修>

キャリア&マネー協会「女性のための資格カタログ」監修、他、西東社「医療事務の仕事」、「幸せ女子になるための資格・検定ガイド 200」、働くママの応援マガジン「Bizmom」「プレジデントファミリー」「日経ウーマン」「anan」「レタスクラブ」など。

ブログ：資格大好き！<http://ameblo.jp/mnakase/>



### ○中瀬さん、キャリアカウンセラーとは、どのような仕事なのですか？

中瀬) キャリアカウンセラーは、働く人、また働きたい人がより良く働いていくための支援を専門としています。

かつては就職したら定年まで 1 つの会社で働き続けることが当たり前の時代でした。今や、そうとは限りません。会社の都合で離職せざるを得ないこともあれば、自らの選択で企業や働き方を変えて行くこともあるでしょう。そんなときの相談者がキャリアカウンセラーです。具体的には、相談を受けたキャリアカウンセラーは、仕事に関わる情報提供やアドバイスをします。時には不安などの気持ちを聴きながら、寄り添い、ご本人の気持ちの整理を促します。

キャリアカウンセラーは、ハローワークなどの就労支援機関のほか、大学などの教育機関、また企業においても活躍している方がいます。私が資格を取得した頃（2005 年）に比べると、相談できる環境が急速に普及したように感じています。

私は主に女性や学生の就労支援に携わっています。なかでも、もともと資格取得のためのスクールに 10 年ほど勤務していたことや情報サイト AllAbout で資格ガイドをしていることもあり、とりわけ資格や検定に関わる相談を多く受けています。

### ○中瀬さんが感じている「働くために必要なこと」とは何でしょうか。

中瀬) 私たちが働いていく上で、必要なのがコミュニケーションです。コミュニケーションによって、相手との信頼関係が築けます。相手の気持ちを聴き、自分の思い伝える言葉があってこそ、コミュニケーションが成立します。

ビジネスシーンでは、お客様や取引先、もちろん職場でも上司や同僚との信頼関係が大事です。さらには、適切な言葉、つまり正しい日本語を使うことは、ビジネスマナーでもあり、相手への敬意を示すものです。

ただ、学生にとっては、どういう場面でどのようなことが必要なのか、なかなか想像できないのかもしれないでしょう。いざ世代の違う方と話すときや、フォーマルな場での敬語の使い方に戸惑うこともあるでしょう。

日本語検定2級、3級の試験問題をみると、具体的な場面設定がされており、社会人になる前に取り組み、心構えもできると思います。

○そうしますと、少なくとも大学生のうちから社会に出て活用できる日本語の力を身につけることが必要ということですね。

中瀬) 日頃使っている日本語だけに「自分はできている」と思いがちです。でも、いざ就職活動で応募書類に自己PRを書く、志望動機を書くというときになかなか自分の思いを文章にできない、ということがあります。また面接では「自分の言葉で答えましょう」といっても、語彙や表現力、文章のきまりなどを身につけていないと、自分の思いを言葉にするのが難しいようです。

じっくり聴けば学校の授業もまじめに取り組んでいるし、ボランティア活動にも積極的に関わっているなど、さまざまな体験もしていることがわかります。非常に感受性豊かで、物事を様々な角度から考えようとしていることも伺えます。言葉を知らない、文章にできないことで、そこで考えることをやめてしまう。もったいなあと感じています。

○言葉を知らないがために、考えるのをやめてしまうというのは、とても残念なことですね。これから、どのように言葉、日本語に向き合っていきたいのでしょうか。

中瀬) 昔に比べれば、コミュニケーションツールは格段に増えています。携帯、スマホ、メール、LINEなど、話すことや書くことでより多くの人とつながることができます。日本語を使うシーンが増えているのは確かです。母国語は私たちが生きていくのに土台となるもの。今こそ学びなおし、さらに学び続ける必要性を感じています。とはいえ、今まではどう学ばばいいのか、学ぶ術を知らない方も多いと思います。日本語検定があることで、自分のレベルを知ることができ、足りないところを補い、さらにはより豊かな表現力や言葉を身につけることができます。

○日本語検定を通じて、皆さんが楽しみながら自分の日本語力を見直すきっかけになるとしたら、私たちにとっても大変嬉しいことです。最後に、何か付け加えることはございますか。

中瀬) ビジネスはもちろん、プライベートでも、美しい日本語を話す人は素敵なもの。年を重ねれば、なおさらのこと。言霊というように、言葉には「良き言の葉は良きものを招き、悪き言の葉は災いを招く」といって、神秘的な力があるといわれています。日本語力を高めることを意識し、また日常のなかで実践していくことで、よりよい人間関係を築くことができるでしょう。

それがまた、より良い働き方につながっていくと思います。

○中瀬さん、本日は誠にありがとうございました。